

平成 24 年度事後評価箇所表

番号	3	事業名 (路線名等)	道路改築事業（社会資本整備総合交付金） 主要地方道 羽島養老線 羽島養老線バイパス		
実施箇所	養老郡養老町（船附～高田工区）	全体事業費 (当初事業費)	3 5 億円 (3 5 億円)		
採択年度	平成 8 年度	完了年度	平成 2 2 年度		
事業目的	<p>主要地方道羽島養老線は、羽島市と養老町を結ぶ総延長約 1.3 km の主要な幹線道路である。このうち養老町内の牧田川右岸堤防区間は、幅員が狭い上に大型車両の通行が多いことから大変危険な区間となっていました。</p> <p>このため、県では平成 8 年度より現道の約 900 m 南に延長約 2.7 km のバイパスの建設に着手し、平成 18 年度までに、国道 258 号から西へ約 1.9 km の区間を供用。平成 22 年度に事業を完了いたしました。</p> <p>これにより国道 258 号と養老町市街地が 2 車線道路で接続することから、通行車両の安全確保をはじめ、交通の集中分散や、地域の活性化に貢献することが期待される。</p>				
事業概要	<p>事業延長 L = 2, 680 m</p> <p>車道幅員 W = 3.25 m (2 車線)</p> <p>歩道幅員 W = 3.50 m (両側)</p>				
概要図					

評価結果	
①住民参加・協働による効果	
○整備中、工事現場の見学会を開催し、工事への理解を深めてもらい工事を円滑に進めることができた。	
②事業効果	
<p>○地域間のアクセス性が向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養老市街地～大垣市南部市街地へのアクセス性が向上 ・現況の狭隘区間を解消し、大型車の円滑な交通を確保 <p>【所要時間の短縮効果】養老町役場～名神高速道路大垣 IC</p> <p>羽島養老線（現道）：総延長 8.9km、平均旅行速度 36.8km/h</p> <p>羽島養老線（BP）：総延長 8.1km、平均旅行速度 36.8km/h</p> <p>所要時間</p> <p>現道 14.5 分－BP 13.2 分＝1.3 分の所要時間短縮</p> <p>○地域内道路ネットワークの形成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・並行する南北路線（羽島養老線現道、一般県道養老平田線）の交通を分散し、円滑な交通を確保。 ・広域農道と一体となり、地域内の道路ネットワークを形成。 <p>○安全で快適な歩道空間の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・羽島養老線（現道）は、歩道が整備されておらず、歩行者は非常に危険。 ・羽島養老線バイパスに歩道を整備し、歩行者の安全性を確保。 <p>○費用対効果分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・羽島養老線バイパス（船附～高田工区）の B/C は、2.5 と算定。 ・1.0 を越える値であることから事業の妥当性が確保されていることを確認。 	
③環境面への配慮	
<p>○希少猛禽類への配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> ・羽島養老線バイパス周辺には、希少猛禽類である「オオタカ」の営巣が確認されており、当該路線を整備するにあたり、工事中の対応方針等を検討した。 <p>低騒音建設機器を利用した工事の実施を行い、整備後には、営巣への影響把握を行うため、アドバイザーより提言を受けながら継続的な調査を実施している。</p>	
④事業を巡る社会情勢の変化	
<p>○養老町周辺における新規商業施設の立地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国道 258 号が 4 車線整備されるにあたり、沿線に新規商業施設が立地。 <p>また、国道 258 号に接続する羽島養老線バイパスが整備され、羽島養老線バイパス沿線にも商業施設が立地。</p>	
⑤利用者・地域住民等への効果	
<p>○沿線住民等へのアンケート調査の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沿線住民等へのアンケート結果で、整備に対する満足度を確認したところ、6 割以上の満足が確認できた。 ・また、当該区間の整備に対して、利用頻度形態別の満足度の集計を行った。 <p>【満足度の指標による道路整備効果】</p> <p>週に 5 日以上当該路線を使用：約 94%が移動時間の短縮に効果があると回答。</p>	

週に3、4日以上当該路線を使用：約88%が移動時間の短縮に効果があると回答。

週に1、2日以上当該路線を使用：約84%が運転のしやすさに効果があると回答。

月に1、2日以上当該路線を使用：約81%が運転のしやすさに効果があると回答。

⑥ 対応方針

(今後の事業評価の必要性)

○ 走行時間短縮、隘路や線形不良区間の解消など、事業効果が確認できた。

○ 沿線住民等へのアンケートでも、6割以上の「満足」を確認できた(「やや満足」を含む)。

(※「不満」は1割未満)

→ 以上の点から、今後の事業評価は不要。

(改善措置の必要性)

○ 速度抑制等の安全対策について検討。

(新規事業へ適用すべき留意点)

○ 本事業は、広域農道と連携することにより、地域内の交通処理の向上に寄与する道路ネットワークを形成。

○ 周辺の道路事業との連携に留意し、新規事業の推進を目指す。